

学生200人の
グループワークを実現

出席機能でコメントを収集

学生に意見を発言させることで、さまざまな考えを知る機会を与える——。そんな授業は理想的ですが、規模の大きい授業での実現は決して簡単なことではありません。しかし、山根先生は「manabaの出席機能を使うことで、約200人規模の『平和学入門』でも、実現することができました」と話します。

この授業では毎週、英文記事『Japan Focus』などの通読を課題にし、manabaの出席カードにはその記事について一言、コ

メントを入れることになっています。すべてのコメントは学生の名前を消し、プリントアウトして配布。「こうすることで、学生はお互いの意見を共有することができますし、視野を広げることにつながると考えています。私自身も、学生が何を考えているのか分かるようになりましたね」とそのメリットを話します。

大規模授業でグループワークを可能にする

manabaの導入を機に、グループワークも実現しました。「200人もの学生が履修する授業でグループワークをするのは冒険

でした。でも、いざ始めてみると、みんな真面目に取り組んでいましたね」。

まず、学生は、核兵器&軍縮、原発問題、地域紛争、環境問題などから、取り組みたいテーマを選択。同じテーマを選択した学生は協力し合って研究に取り組み、最終的にその成果を発表する機会を設けました。発表で使われた資料は、パワーポイントやプリント、YouTubeなどさまざまですが、それらはすべてmanabaに掲載。それぞれの研究発表に対してコメントが書けるよう、manabaに掲示板を設けると、学生から多くの意見が寄せられました。山根先生は「掲示板の活用で、大規模授業でも、ゼミさながらの活発な討論を実現することができました」と予想以上の効果に驚きを隠せない様子です。

掲示板が意見交換の場に

発表以外の授業に対するコメントも多く、昨年の「平和学入門」における投稿数は3,000を上回りました。その理由を山根先生は次のように説明します。「『書いても書かなくてもいい』と言うと誰も書かないだろうと思ったので、授業の最初に『書いた人は評価します』と明言したんです。そうすることで、授業をきちんと聴くようになるのでは、という期待もありました」。

その狙い通り、学生は掲示板にコメントを書くために授業や発表に耳を傾けるようになりました。さらに、投稿されたコメントに対しても多くの意見が書きこまれるようになり、掲示板は学生の意見交換の場として定着しました。「学生は、ほかの学生の意見に興味を持ちますし、自分の意見に対してフィードバックがあると嬉しいもの。みんな、深く考え、勉強するようになりましたね。掲示板は学習意欲を向上させるきっかけになったと感じています」。



1 平和学入門の出席カード提出状況確認画面です。カードタイプはクエスチョンを用いて、学生へ事前課題について一言コメントを提出させています。学生が提出したコメントは、Excelで一括ダウンロードをして氏名を消した状態でプリントアウトをして共有しています。

2 平和学入門の掲示板のスレッド画面です。テーマごとにグループを作成し、授業で研究発表を行います。発表者はスライド等資料を掲示板に添付し、その他の学生は発表を聞いて意見を書き込みます。

授業の延長にmanabaを使う

さらに掲示板は、学生のレポート作成にも活用されました。「この授業では、最終的にレポートを提出してもらおうのですが、その多くが、掲示板に投稿されたさまざまな考えを理解した上で書かれていたんです。掲示板を活用することで、学生はこれまで以上に学びを深めることができたと感じています」と山根先生。ほかの小規模授業でも掲示板を導入し、授業時間内に討論が終わらなかった場合は、掲示板でその続きを行っているそうです。

掲示板は日本の学生に適した機能

それまでは一方的な講義だった授業も、manabaの活用でグループワークが可能になり、学生同士の活発な意見交換も実現することができました。

「日本の学生は討論が苦手ですが、書くのは得意なんです。manabaは日本の学生に適したシステムですね」と山根先生。今後も活用したいと話してくださいました。

授業規模

大規模

中規模

小規模

授業形態

講義

演習・実習

語学

manaba機能

小テスト

アンケート

レポート

プロジェクト

成績(採点結果)

掲示板

コンテンツ

コースニュース

出席